

「症候性側弯にどう立ち向かうか」

開催要項

開催主旨：

当研究会は、2009年8月に設立されました。その年の11月に、200余名の参加者をもって第1回研究会セミナーを開催し、「重症心身障害と向かい合う理学療法の明日を展望して」とのテーマで、これまでの重症心身障害にかかわる理学療法をふり振り返り整理を試みました。多くの熱心な参加者と多くの課題を共有できたことに、成果と希望を得ることができました。一方で参加者の声にもあったように、焦点が定まらず討論が不十分になってしまった感もありました。

そこで、第2回の研究会セミナーは、「症候性側弯にどう立ち向かうか」をメインテーマといたしました。「症候性側弯」は、重症心身障害のある人々と彼らに関わる人々にとって重要な課題と感じています。障害と伴に成長し暮らしていく彼らにとっては重大な二次障害を招き、また、その理学療法にたずさわる私たちにも苦勞の多い課題となり、誰もが日々悩んでいることと思います。その機序も多様で複雑で長期にわたり、場合によっては重篤な結果の要因にもなっていくと見えます。なにより「症候性側弯」は重症心身障害に特化した障害で、本研究会が取り組むべき重大な課題のひとつと感じております。

もちろん、1回の討議で答えが出るものではないことは承知しています。絶対的な結論もないかもしれませんが、講演や話題提供、討論を通じて出てくる多様な意見が、この重要で固有の課題への価値ある取り組みの方向性を示してくれることと思います。「症候性側弯」への取り組みの歴史や、現時点での情報、課題を参加者で共有し、協力して立ち向かうためのコンセンサスが得られたならば、未来への重要な一歩となると期待しています。

2日目の分科会は、少人数であることを大切にするため、前回よりもひとつ増やして5分科会としました。各分科会はおおむね前回と同じメンバーが話題提供や進行を担当しますので、前回からの積み重ねが少しでもできていくことを期待しています。この分科会は、全国それぞれの地域で活躍する皆さんが、情報を提供し、課題を確認し、重症心身障害の理学療法のコンセンサスやスタンダードを確立するためにチャレンジしていくべきことなどが、徐々にでも形作られていくことを目的の一つとしています。ぜひ、活発な討議や意見交換ができることを期待しています。

また、他の分科会の説明・討議内容を知ることが、参加者が将来に向かって課題を共有するために必要と考え、今年も昨年に続き概要をまとめた報告集を作製し、前回同様に全参加者に配付いたします。このセミナーで議論されたことが文書という形として残ることは新たな歴史と文化を作っていくこととなります。そのことへの自覚と意欲を持って積極的にかつ活発に参加していただけることを強く願っています。

(代表 花井)

主催：重症心身障害理学療法研究会

共催：社会福祉法人 十愛療育会

開催日時：1日目 2011年1月9日（日）10：00－17：30（受付開始9：45）

交流会 18：45－20：45

2日目 2011年1月10日（月・祝）9：30－13：10 （予定）

開催会場：1日目 県民共済みらいホール

（神奈川県横浜市中区桜木町1-1-8-2 県民共済プラザビル1階）

2日目 横浜市社会福祉センター 4階、8階、9階

（横浜市中区桜木町1-1）

アクセス：いずれもJR 根岸線・横浜市営地下鉄 桜木町駅から徒歩すぐ

2日とも、桜木駅から会場まで案内が立ちます

内容：詳細は後述

【1日目】

開会式

話題提供「症候性側弯症への経験」

基調講演「日本の療育の歴史と側弯」

オープンディスカッション：「症候性側弯にどう立ち向かうか」

交流会 18：45～20：45 （参加費 5000 円）

オープンディスカッション番外編「本音で語ろう重症児者の理学療法」

会場：GRACE BALI 横浜関内 JR関内駅北口より徒歩3分

（横浜市中区末広町3-95 パセラリゾーツ横浜関内店ビル 4階）

【2日目】

総会

分科会

第一 「重症児者の姿勢ケアを考える」

第二 「重症児者の呼吸ケアを考える」

第三 「腹臥位保持を中心とした生活支援用具」

第四 「EBMを見据えたこれからの重症児者の評価とは」

第五 「重症児者の施設と在宅の生活を支援する」

定員：約200名 申し込み多数の場合は選考となります。

参加費：1万円

応募期間：2010年9月1日から9月30日（最終日に到着分まで有効）

応募方法:官製往復ハガキに(1)～(7)を明記しお申し込み下さい。

返信用ハガキには住所・氏名を明記して下さい。

- (1) 氏名(ふりがな)
- (2) 所属先の都道府県 日本理学療法士会所属の方は会員番号
- (3) 所属:勤務先・〒・勤務先住所
- (4) 連絡の取れる電話番号(勤務先、携帯でも可)
- (5) 希望する分科会(第3希望までご記入お願いします)
- (6) 交流会の出欠
- (7) このセミナーに期待すること

送付先:〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-1-10

心身障害児総合医療療育センター リハビリテーション室

P T 竹本 聡 宛

* 送付先と事務局とは異なりますのでご注意ください!

記入例:

1730037

東京都板橋区小茂根1-1-10
心身障害児総合医療療育センター
リハビリテーション室
PT 竹本 聡 行
往信の宛名面

白紙

ご自分の
連絡先を記入してください。
返信の宛名面

第2回重症心身障害理学療法
セミナーの参加申し込み

1) 川村里美 かわむらさとみ
2) 神奈川県 27305
3) 横浜療育医療センター
〒241-0014
横浜市旭区市沢町 557-2
4) 045-352-6893
5) 第1希望 第5分科会
第2希望 第4分科会
第3希望 第3分科会
6) 出席
7) 記入例

参加の決定:

参加の可否、参加者番号、出席可能分科会名等必要事項を明記し返信いたします。

10月22日までに到着しない場合は、申し訳ありませんが事務局までお問い合わせ下さい。

入金:

返信葉書に口座番号を記載いたしますので、参加費(1万円)、交流会にご参加のかたは交流会費(5000円)も含めて10月末までにお振込み下さい。振込手数料はご負担下さい。

お振込みの際には、氏名の前に参加者番号を入力してください。 例) 115 川村 里美

⇒出張等により、本人以外の名義でのお振込みの場合は、事務局まで事前にご一報ください。

注1) 参加決定後、キャンセルを希望される場合は、入金前に事務局にご一報ください。

注2) 入金後にキャンセルされる場合は、参加費の返金はいたしません。あらかじめご了承ください

個人情報の取り扱いについて:

申し込みいただいた際の個人情報は、事務局で厳重に管理のうえ、目的外利用・提供は行いません。

その他:

- ・ 1日目と2日目で会場が異なりますのでご注意ください。
- ・ 駐車場はありません。車での来場はご遠慮ください
- ・ 館内での喫煙、ホールでの飲食はできません。ご了承下さい。
- ・ 昼食の斡旋はしていません。会場近隣に飲食店が多数ございますのでそちらをご利用いただきますようお願いいたします。
- ・ 宿泊先の斡旋はしていません。会場最寄りの桜木町駅および、隣の関内駅周辺に多数宿泊施設がありますので、そちらをご利用になられると便利です。

お問い合わせ先:

研究会事務局:社会福祉法人 十愛療育会 横浜療育医療センター
〒241-0014 神奈川県横浜市旭区市沢町 557-2
045-352-6893(リハ課直通) 担当:川村 里美

第2回 重症心身障害理学療法研究会セミナー

「症候性側弯にどう立ち向かうか」

一日目 平成23年1月9日(日) (受付開始 9:45) 会場: 県民共済みらいホール

◆ 開会式 10:00~10:10

◆ 話題提供 「症候性側弯症への経験」
10:10~11:30
パネラー: 海瀬一典 (大阪発達総合療育センター) 側弯装具と理学療法
辻 清張 (福井県こども療育センター) 側弯の理学療法
岸本光夫 (フリーランス 作業療法士) 側弯への姿勢保持
コーディネーター: 金子断行 (心身障害児総合医療療育センター)
杉浦真紀 (東京都立府中療育センター)

◆ 基調講演 「日本の療育の歴史と側弯」
12:40~14:20
講師: 梶浦一郎 (大阪発達総合療育センター 整形外科医師)
座長: 平井孝明 (神奈川県こども医療センター)

◆ オープンディスカッション: 「症候性側弯にどう立ち向かうか」
14:40~17:30
パネラー: 海瀬一典 (大阪発達総合療育センター)
辻 清張 (福井県立こども療育センター)
岸本光夫 (フリーランス 作業療法士)
コーディネーター: 金子断行 (心身障害児総合医療療育センター)
杉浦真紀 (東京都立府中療育センター)
指 定 発 言: 高塩純一 (びわこ学園医療福祉センター草津)
花井丈夫 (横浜療育医療センター)

● 交流会 (希望者のみ、別会費で5000円) 会場: GRACE BALI 横浜関内
受付 18:30~ 18:45~20:45

オープンディスカッション番外編「本音で語ろう重症児者の理学療法」

司会進行: 花井丈夫

二日目 平成 23 年1月 10 日(月・祝) 会場:横浜市社会福祉センター

◆ 総会

9:30~9:55

会場: 4F ホール

※ご出席に関する詳細は、初日にご案内いたします。

◆ 分科会

10:10~13:10

会場: 4F ホール及び 8F、9F (詳細は当日会場にて、呈示いたします)

第一 「重症児者の姿勢ケアを考える」

話題提供 奥田憲一 (柳川療育センター)
宮本久志 (国立病院機構長崎病院)
司会進行 平井孝明 (神奈川県こども医療センター)
記 録 福原一郎 (横浜療育医療センター)

第二 「重症児者の呼吸ケアを考える」

話題提供 白田由美子 (群馬県立小児医療センター)
金子断行 (心身障害児総合医療療育センター)
司会進行 中林美代子 (新潟県はまぐみ小児療育センター)
記 録 川村里美 (横浜療育医療センター)

第三 「腹臥位保持を中心とした生活支援用具」

話題提供 染谷淳司 (東京小児療育病院・みどり愛育園)
辻 清張 (福井県こども療育センター)
司会進行 杉浦真紀 (東京都立府中療育センター)
記 録 竹本 聡 (心身障害児総合医療療育センター)

第四 「EBMを見据えたこれからの重症児者の評価とは」

話題提供 榎勢道彦 (大阪発達総合療育センター)
中 徹 (鈴鹿医療科学大学)
司会進行 押木利英子 (新潟医療福祉大学)
記 録 松田雅弘 (了徳寺大学)

第五 「重症児者の施設と在宅の生活を支援する」

話題提供 高塩純一 (びわこ学園医療福祉センター草津)
齋藤大地 (株式会社はこぶね)
司会進行 藤井満由美 (別府発達センター)
記 録 加藤貴子 (横浜療育医療センター)

以上